

## シグマ研究委員会

### 昭和55年度 第7回運営委員会議事録

日 時 : 昭和55年11月28日(金) 13:30-17:00

場 所 : 原研 東海研 研3棟322号室

出席者 : 塚田(委員長, 日大), 松延(住友原工), 関(MAPI)  
大竹(動燃), 中嶋(法大), 原田, 田中, 五十嵐, 菊池(原研)  
オブザーバ : 松本, 浅見(原研)

配布資料 :

1. 前回(55.10.24)議事録(案)
2. JENDL-3計画
3. Twenty - Second Meeting of MEANDC

議 事

1. 前回議事録確認  
資料(1)により確認を行い, 1部を訂正し了承された。
2. 事務局報告
  - (1) 「核データニュース」No.14の発行
  - (2) NESTORZに格納されたEXFORデータの現状
  - (3) 1980年検討会の出席者数は約50名の予定である。
3. WRENDA作業報告  
五十嵐氏から, 国内よりのリクエストについてスクリーニングの作業を行い約200件を国際センターに送ることになるとの報告があった。また, これらのデータの格納検索システムをつくったので, それからの出力をそのままレポートにするとの説明があった。
4. JENDL-3検討小委員会報告  
原田氏から, アンケート調査では多種多様の希望が出てきたが, それを満たすには膨大な作業量を必要とする。作業量の推定やman powerの増加の

方策等について拡大小委員会を開いて議論を行った。12月22日の会合で答申案の検討を行い、1月の運営委員会に答申書を提出する予定であるとの説明があった。これに関連して、JENDL-3で核融合炉用データをどう考えるかについて質疑・討論があった。

次いで、田中氏から資料(2)によりJENDL-3計画の作業量の試算、作業体制について説明があり、とくに必要な人員数のこと、拡大小委員会で民間会社・大学関係者に意見を聞き協力を求めたこと等が説明された。これに関連して、大学から協力をうるための方策、大学関係者ともっと積極的に交流を計る必要のあること、長期的に得失を考えた方がよいこと等のコメントがあった。

## 5. 国際委員会関係

### (1) NEACRP Working Group Meeting on European Evaluation Procedures

田中氏よりヨーロッパの統一ライブラリーに関するその後の動きとして、NEACRPのCampbell氏からのテレックス、それに対する弘田氏の返事等が紹介された。

### (2) NEANDC 次回会合

塚田氏から資料(3)により来年4月にCadarasheで行われる第22回NEANDC会合の予定について説明があった。

なお、9月に行われたBNLシンポジウムに出席した山室氏から、来年早々に話をしてもらうことにした。

## 6. 学会特別会合

松延氏から、来年の年会における特別会合のテーマについて検討しておいて欲しいとの要請があった。

## 7. 来年度計画

菊池氏より、DDXデータファイル作りのため来年度から新しいWGとして炉定数専門部会の中に核融合定数WGを設けることが提案され、大筋については了承された。

なお、今後の来年度計画の検討は昨年と同じペースで行うことにし、次回

では各専門部会の計画の検討および本委員会の名簿の作成を行うことになった。

次回は1月16日（金）に原研本部で行う予定。